



笑註烈子三



遠
1730
3



門 13
番 1730
卷 3

異国
風俗

笑註列子卷之三

大姪奢國

素多姪ハ姪乱トシテ女色ト好ビ
奢ハ奢倭トテ美麗ト好ム

列子大姪奢國ハ身リシテ乃ル風俗ト流布乃ル
之全ク乃ル保同ハ多ク流布トシテハ亦エ保同
流富饒多ク國ハ姪奢ノ名トシテハ好細ハんと
トシテ姪乱奢倭トシテハ主温觸トシテハ全流富饒
カシテ乃ル小勤アリモウ縦小同好ハ安逸トシテハ
小色ト助ルお子ハ水淫哇好色冊子の好
小代例ハ多クハ此ハ小姪欲乃ハ心トシテハ
遂不美婦人ト好ム故テ美麗俗俗の好ムトシテ
ハ中固テハ此ト患害トシテハ家ト失ハ

大姪奢國





目く小練たる色は多の甲ふらむく美きくひ代
物の垢生有るををしこ代ぬ若干の合度と費
て弁少矢のう作りたる朝夕代傳小笠て景
流不承しよとくひ影乃まくハ心算れありあ神
不具あれども合度のかしとレ見度ひ主人の居
間のと粉ひ編内鬼外作の神靈矢口の皮のう
飲まづひのあぶりしてあ一まハ磁磁の欄干玉の
階防辟風ハ琉璃の緻工障子ハ硝子まろくおれ作り。
上下雙溝道と流珠朱とてまきと塗り。葱とこの木
柱ハ紫檀馬檀鉄刀木と用ひて。おれと之筋に車渠或
玻璃のれと周入承塵ハハ乃大秦國の海産小生を

珊瑚樹とて極びみ乃神と造り。底の間遠ハ柳のあ程
ハ真珠とて象眼の粉ハ。履釘ハ金浪銅鉄と
つて交へ作りたる小山水乃景色と彫刻を並べて釘お
針縫ふはゆきまをこども金浪とて作り。四角の礎ハ虎斑石
或赤間石の如切注浦の腰張リハ。南京晒紗。身まハ
撥く皮とておれと包み。蜀子の綿とて縁とあり
茶の色ハ晋の顧愷之が通灵丹昔の之幅對あり
いの雪舟や将野古伝眼畫をハ美婦くとも枕紙小
多くハ丸巾の黒蹟の魚ハ。衛夫人王羲之の美が
文徴の米元章が直る筆の真行草。海小雪山
廣澤の書一とのとハききけり紙のハ尾の車

角の筒切又支那へ早形仰せたる二十四孝のうち
小の孟宗舟の丸徑炎天のうはちもせ無升
せ并もせられ若く升を瓶とせ又屋根の形容
ふらてせき神社佛國のとうし破屋作りとも名を
き思方細小金根作り乃竟と並べらるる小の秦の
始皇帝の阿房宮の瓦を割て瓦工匠の帝の所
大工須の煙とせそ名久又孟君子も呼せじ魯國乃
公輸子あんで細工のあれはありしをいふもありし
てはありし乃形作り乃内函や又尤甚き帝が事小の
尉室向の小細工といはゆる治の事あれはさき昔の

壯麗哉をー美尽ー乃方根二天四海瀛海神海の
極よめ海をもよほす海目もえふふふふふふふ
てハ汝形作りとせそ名久又孟君子も呼せじ魯國乃
書經の禹貢の海とせそ名久又孟君子も呼せじ魯國乃
極よめ海をもよほす海目もえふふふふふふふ
そこのもえふふふふふふふふふふふふふふふふ
色のもえふふふふふふふふふふふふふふふふ
客石の汝形作りとせそ名久又孟君子も呼せじ魯國乃
小買の求むる日本木竹街道松枝の汝形作りとせそ名久又孟君子も呼せじ魯國乃
花山後の汝形作りとせそ名久又孟君子も呼せじ魯國乃
の平なり小石とせそ名久又孟君子も呼せじ魯國乃

いそぎ
ひそぎ
ひそぎ
ひそぎ
ひそぎ
ひそぎ
ひそぎ
ひそぎ
ひそぎ
ひそぎ

さくらのと衣南海軍の湖舌織一絹の帯と纏
ひ志述異記にも孔雀鳳凰の羽を織一羽織と云一
古金作りの煙管小金履輪の火盆連錢草色
馬の細き鉄金馬のふもと箱こまのり小付の
ろと一と一と考ふる一田假寐かどの付の
小下小虎の皮と虎と豹の皮と布と一幅二
ふひの形縷飾縮細糸の布団十四枚枚も
あれは端巻と一この被は後厚の玉牒が
まも入一傍の被枕ハ盧をがめ平一
着中ふんが那那のつ枕一頭づいしき
ぬう肥股と枕と一右のよと浮のち子英人たのよ

小探探一胸の腹とへりてハ呉狄のれり毛
小探探一胸の腹とへりてハ呉狄のれり毛
小探探一胸の腹とへりてハ呉狄のれり毛
小探探一胸の腹とへりてハ呉狄のれり毛
小探探一胸の腹とへりてハ呉狄のれり毛
小探探一胸の腹とへりてハ呉狄のれり毛
小探探一胸の腹とへりてハ呉狄のれり毛
小探探一胸の腹とへりてハ呉狄のれり毛
小探探一胸の腹とへりてハ呉狄のれり毛
小探探一胸の腹とへりてハ呉狄のれり毛

いふともててつる處へは身を辱のたのみとて
あつていふはさるしつら成もけりさくは
せめて此業耀の百も一とも一生が別一本切でもして
えたりと云ふまきろふはつらあひりいふ所んと
うまゝ急首せ伸ていづく君は言れひ終つるが
大悪国はれせんと言語道断を覺今が
大柱とてありいんとあれは凡は國の人一人の女を
さるのありとてしつれれも殺十人の侍妻を
殺すこゝろ多の婦人をあり大乱のあり又
いんといふ多の美妾を傍らに置て
懐妊してこゝろ多の子女の子二十人ふも
いれり

いひかぶり其れ殺多の子たの中いせし子と不
せ子といふものあえむを和縁ともいふ
かしてかゝる風は父のまかりとて乳の
末子とていふものせしとて他人の
あひてき教をす又又見はせと冠
きききかゝる多の和縁をすかれとも父存生
の内いづる風もにさして事とていふ
思ふはいりすとて情めていれと
中い父存生と申の室をされめ
りして謀計を教へての令
小も室をいふて威のきり又室をいふて



出立す一とすもゆりまのりもわち時高ふハ登りの子
 也最負一してたがふ權威と争ひぬふ一家の仲小日子
 闘争のゆげまの尻後少加根あり高き変て他人の口を
 思ふあれハ父身妻ふ一の合致あらうたふハ挑み
 ゆりその逆ハ加添く智計ゆりその時を得て之を
 弄小邪魔あり妻とも殺害して泣く残なる一入乃
 とのま家の主人とハありとくかくして二三年も安泰
 小おさずるとさふらふ又姓舎の二ツきぎ一ひりておと家
 せ乱一勇せぬふこれハけふ小成もをさ一も名なきま
 那の奇植公も侍妻とふとの不惑ひまをせらぬ子た教人
 たらけひのま子た小おさ子不也子ゆり妻小を後の備

ゆりつる植公死にえ付一乱起りて葬送するとのとを
 二人もあつそふ骸の蛆生一恐名と末世小残一
 づもを規矩の妻殺ひの恥をとせし又晋献公も驪姫
 殺してこれハ誑言とゆひ太子申生を殺一連と平
 一國をさゆらざるたあ一ゆりの備もあびた一既
 小夫婦人ハ毒出こと古人のい一も多ハこれして
 乱を生さざる王公を人のい一いハあらど平人小
 於てハ嫡妻の子妻腹の子英ハ女子季子とのいハ
 きつともそ別はゆりまとの之も後也幼の理よくを
 てさるゆりハ泣くとも日子闘ハ自出と希有の理あり
 古く也幼の女と正あをとい一も中成上下せぬふなる

太平御記 卷三 十一

〇とぞおのゝふとをこゑうーのゝんりり得る人も女を
 小成の易きものあれ十人小九人と嫡妻の子と嫁
 和命一近きものもいひ一妾腹の子と嫁を一威
 とするものもいひる世間不救多りもの君海王の後
 予がうー事と少年の父一被くやけくはあは
 と不列子此及理とめて御得たれどもいふて
 も此方の全盤もまたあふぶる事と同一詰てんを
 又事小いものもさてもいふまに母のあつたあつた
 何れを非を駁とやとていふれども同一旦の恥部さるる
 一生の恥といえ二つの不審と問ふものいふものおーのさう
 あれば妾とふらのいふりくもいふとをいふまにさ

〇ある事言ていふ。何れれりりとのまよひ去
 せん小侍妾の救たるものりりなき書籍小學者
 記一ちうり固て妾と御制をいふ一とふりりて嫡
 妻と迎えて出生せん。五條を御絶きりて
 ち候へむ存か。一と救のちらふも何れはは
 妾とふらのいふれあつた思ふの妾と金とをも
 能く事候も幻のあつたをたせ小瀬をたせ思ふ
 家持の謔ふちうりりもあつたのりりきりりやん
 ちうりり嫡妻の腹不出生の子救人何れはは妾の
 いふあつたのりりをたせ思ふのりり姑母の娘
 責と事何れ家の駁く妾といふ大畏おんりのり思ひ

朋友小あつとほろ親く睦小してそり一此中一
自天災のん対今流のそ救小成手程のり
あふれを助ひ助てそ難小安泰ありしり
あての室室員ともいへり一今流ハ侍多々
奢俊を縦小一弟と失えり一と不實とて
あさぬバ入流とハせひま有り。たとえてい
流主卒のり一あれとよ人軍帥之は軍帥今流
の士卒と義小つり乃不志れびいせし
視察てあときハ弟小い用とる之切と
非乃非あてそ付と失ひひの士卒とよ
あそりぞ用とあすといともあ冠誰とありて

弟の患苦とすぬれを今流の痛音
人くあれハ代物ありとそ婦人や奢俊乃
たあ小糧菓知のとくき小捨りともい今流乃
罰心とそ弟小教ひ家とすそりぞ一と
小貧窮小ありとくと他人ハ小不及と親縁
者小入難と身進退あふ谷艱難ハの
此志一さあれとそ非乃非あてとも今流
深く包み差つ唯部各あらんも人
と今流の徳と蔑してよろし
かく及小あたりと小恥の節小あひ
き時とせざる時とと徳小あ
十五

乃

知言烈子卷三

風吳
俗國
笑泣
烈子
道之

